



松 涛

№.41

2024. 10. 1

主な記事

同窓会長挨拶	2
学部長挨拶	3
常任幹事会報告	5
今年度の活動計画	5
同窓会会計報告	6
農学部を去るにあたって	7
支部だより	9
ペンリレー 同窓生からのたより	12
学部だより	15
農学部の動向	16
特集（農学部同窓会創立70周年記念事業）	18

同窓会長挨拶

同窓会長 渡 辺 仁

(昭52農工)



日頃から、農学部同窓会の諸活動にご理解、ご支援を賜り、感謝申し上げます。

昨年、ロシアのウクライナ侵攻が泥沼化、イスラエルとハマスの衝突激化など、各地で紛争のニュースが絶えない年でした。

国内でも、陸自のヘリや米軍のオスブレイの墜落、長野や岐阜での発砲・銃撃事件など尊い人命が失われた悲惨な出来事も多発しました。

そんな中でも、将棋の藤井棋士が史上初の八冠を達成、ホームラン王、ハンクアーロン賞受賞など大リーグ大谷選手の快挙、WBCでの侍ジャパン優勝など、国内外で日本人の活躍が目

立った年でもありました。

一方、新型コロナウイルスはインフルエンザと同等の扱いとなり、行動制限も大幅に緩和され外国人観光客の数もコロナ前を超え、全国各地で賑わいを取り戻しているとの報道もありました。

新潟大学では、対面形式の授業が再開し、構内も多くの学生が行き来し、活気を取り戻してきたようです。また、卒業式や入学式も例年に近い形で開催され、会場となった朱鷺メッセも晴れ着姿の学生で溢れていました。

卒業祝賀会は出来ませんでした、保護者懇談会は対面形式で開催され、保護者の皆さんに直接同窓会への加入をお願いする機会が持てて良かったと思っています。しかし、入会率は70%台に届かず、更なる入会促進への工夫が必要であると思っています。

同窓会活動も少しずつ従来の姿を取り戻してきました。

全学同窓会では、幹事会も対面形式

で開催され、学生団体や大学との懇談会も懇親会無しではありませんでしたが開催出来ました。

新潟大学と全学同窓会の交流会講演会も、10月21日(土)に医学部保健学科同窓会が担当し、牛木学長、臼杵全学同窓会長の参加を頂き開催出来ました。

記念講演では、「ドナルド・マクドナルド・ハウス新潟について」と題して、にいがたハウスマネージャーの稲川様からのお話、研究報告では、「小児患者の自立支援・自己開示の大切さ」について、住吉教授からのお話がありました。

いずれも小児医療の在り方について、示唆に富んで考えさせられる内容でした。

農学部同窓会では、5月27日(土)に各県支部代表7名を含めて35名の幹事が出席し常任幹事会を開催しました。懇親会は、創立70周年記念事業の話題もあり、例年にも増して盛り上がり、記念式典での再会を期してお開きとなりました。

また、慣例となった嵐丘庭の草刈りについては、6月24日(土)に実施しました。昨年同様在校生の参加はありませんでしたが、大学の教員とその家

族、県職員やそのOBを中心とした同窓会有志が30人ほど参加し、心地よい汗をかきました。残念ながら作業終了後の昼食会は今回も開催出来ませんでした。

二年越しに準備を進めてきた同窓会創立70周年記念事業も、多くの皆様から多額の募金やご支援を頂戴し、11月11日(土)の記念式典や祝賀会には200人を超える同窓生の皆様からご参加いただき、盛大に開催することができました。

この場をお借りして、ご支援いただいた同窓生の皆様、ご準備いただいた実行委員会、事務局の皆様、ご講演頂いた講師の皆様など関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

記念事業の詳細につきましては、別途「同窓会創立70周年記念事業記念誌」や農学部同窓会HPをご覧ください。そのほか、学部への支援活動も、様々な制約がある中ではありましたが、ほぼ例年通りに実施できました。今後とも少しずつですが、活動の充実を目指していきたいと思っています。

現在、紛争や地球温暖化に起因した世界的な食料不足や価格高騰などが問題提起されております。国内では、農村地域は担い手の確保が難しく、日本

学部長挨拶

農業の持続的な発展を担保するには、生産者の確保はもとより、農業資源の確保、更にはそれらを各方面から下支えする人材の確保が重要になっていきます。

こうした中、今年は「農政の憲法」ともいわれる「食料・農業・農村基本法」が、25年ぶりに改正されることになりました。

食料の安定供給と農村地域の持続的な発展に向けて、農学部卒業生の活躍に期待するところも大きいと考えています。

農学部に対しても、「生命」・「食料」・「環境」を考える総合科学としての農学の発展と共に、これからの日本農業を担う人材の輩出にも期待しております。

今年も、各種同窓会活動をととして後輩の皆さんの後方支援が出来ることを切に願っております。

引き続き会員各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。今年5月に同窓会総会が予定されております。多数の皆さんのご参加をお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



農学部長 西海理之

中田誠前学部長の後を引き継ぎ、令和5年4月から農学部長を仰せつかりました西海です。宜しくお願い申し上げます。

農学部同窓会の皆様には、日頃より農学部の活動に多大なご支援を賜り、農学部教職員を代表して御礼申し上げます。また、農学部同窓会70周年記念事業にて農学部の中庭「風丘庭」の老朽化した木道をウッドチップ道に再整備していただき、大変ありがとうございます。農学部としてもこの風丘庭を大切な憩いの場として活用させていただくと共に、20年30年後も「越後の森林（もり）」として維持できるよう、同窓会の皆様と一緒に守っていききたいと感じています。なお、余談ですが、

今年度からようやく農学部のピアパーティーも再開されましたし、研究室や学生・留学生の交流バーベキューも復活しました。これからはますます風丘庭を活用させていただきます。

世界的な新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着きを見せ、日本でも5月の5類感染症への移行に伴い、withコロナの新たな展開が始まりました。新潟大学でも、また農学部でもそれに合わせてほぼ全面的な対面授業となり、もちろん自己管理などは必要ですが、コロナ禍以前の状況に戻ってきています。マスク着用は任意となり、講義室でも学生のほとんどがマスクを着用していません。（先生達は気を遣っているようで、マスク着用率はまだまだ高いです。）そのため、五十嵐キャンパスも農学部も学生で溢れかえり、お昼休みには農学部1階ロビー周辺の自習室や風丘庭でお弁当を食べている風景も当たり前となり、また授業の合間にはロビーで卓球を楽しむ学生達も多く

（農学部の伝統だなあ〜と感じています）、もう完全にコロナ禍以前の活気が戻っています。令和5年4月に入学した新入生達は、3年間ずっとコロナ禍での高校生活を過ごしてきたので、大学生活を順調に送れるかどうか心配していました。1年次に農学部農学科全員で受講する「農学入門」や「スタディスキルズ」にも元気に参加し、友人もたくさんできてくるようで、活発な学生生活が戻ってきているようです。一方で、コロナ禍で大学に入学してきた令和2年度入学生（今年の4年生）においては、4月からの研究室活動（卒業研究や研究室での先生・先輩・同級生との対人対応など）に少し苦労していたようですが、教職員のサポートもあり、夏休みを過ぎてからは皆順調に頑張ってくれているようです。「大学時代の友達作りって本当に大切なあ〜。」と改めて感じた今日この頃です。

研究面や国際交流の面からもwithコロナの新たな展開が始まっています。教員の国内・海外出張も活発になり、学生と一緒に、調査研究や共同研究などで活発に学外フィールドに飛び出しています。さらに、昨今の円安も一つの要因かと思いますが、海

外の学術交流協定大学からの訪問も多くなりました。今年度に入り、トルコ・アンカラ大学の各学部長、トルコ・エーゲ大学やスリランカ・ペラデニア大学からの公式訪問に加え、海外の多くの研究者が農学部を訪れ、農学部教員や学生と交流を深めています。加えて、農学部が関わる大学院自然科学研究科の「農と食のスペシャリスト養成プログラム」の海外インターンシップも現地に行くことができるようになり、今年是中国・内蒙古農業大学で研修を行いました。

また、農学部では伝統的に地域の産業とのつながりが深く、規模はあまり大きくありませんが数多くの共同研究を行なって地域貢献に寄与しています。3年間のコロナ禍の期間、少し低空飛行状態となっていました。もちろん、農学部教員はそれぞれに研究にも努力していただいているのですが、近年の国内外の情勢を鑑みると、これからは教員個々ではなく大きなチームによる組織対組織の共同研究が望まれています。新潟大学でも地域の夢の実現のために、社会連携推進機構が中心となって昨年度末から本格的に6つの共創イノベーションプロジェクト（共創IP）、すなわち、コメ共創IP、お

いしきDX共創IP、佐渡共創IP、モノづくり共創IP、防災街づくり共創IP、地域医療DXIPが立ち上がり（詳細は新潟大学のホームページからご覧ください）、農学部は実にそのうちの前者3つの共創IPに多くの教員が関わっています。農学部としても、これを契機に新潟大学が掲げる地域の中核大学の推進に中心的な役割を果たすための土台作りを進めなければと思っています。農学分野の教員の研究組織化を進めるためには、現在、いろんな方向に向いている個々の研究分野をいくつかの方向性にまとめてプラットフォームを形成し、情勢に即してプロジェクト／コンソーシアムを立ち上げていく必要があります。また、研究と教育とは表裏一体のもので、農学部の改組が行われて6年が過ぎましたので、まずは農学部の現状とか問題点を洗い出してもらおう、ということ、中堅若手の教員を中心にワーキングチームを立ち上げました。まだ混沌としているようですが、必要なら今後は農学部のプログラム再編成も考慮に入れながら、これから十分に時間をかけてじっくり議論を進めて検討してもらっています。その他、農学部附属ワールド科学教育研究センター（F

Cセンター・旧農場）も変革の時期に差し掛かっています。前号で述べられていたように、令和3年度補正で文部科学省の「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材養成事業」に採択、昨年度には最新の機器が導入され、FCセンタを中心に農業DX事業「フィールドを舞台に農業DXをけん引する高度農業人材育成プログラム」が始まりました。今年度は、新潟大学の学長裁量経費（プロジェクト経費）の補助のもと、充実化を図っています。また8月からFCセンター村松ステーションの建物改築、今年3月からFCセンター担当教授が着任し、新たな農場教育と研究を行う体制を整えつつあります。

最後に……。昨年度末に1名の教員（中田誠先生）のご定年、5月に教員（吉田智佳子先生）のご逝去があり、今年（令和6年）の3月にはなんと以下の5名の教員がご定年退職されます…三ツ井敏明先生（応用分子細胞生物学）、岡崎桂一先生（植物育種学）、児島清秀先生（園芸学、植物生理学）、平泉光一先生（農業経営学）、箕口秀夫先生（保全生態学）。また一方で、新潟大学スイングバイ・プログラムにより今年度は2名の若手教員（岡田萌子先

生、夏川遼生先生）が着任されました。このようにどんな人が入れ替わり、農学部もこの新陳代謝に応じて変わってゆくものだと思います。

同窓会の皆様には、少しずつでも変わってゆく新潟大学農学部を、ぜひずっと見守っていただきたく存じます。できれば、さまざまな局面で協働していただき、ご指導ご協力ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。付け加えますと、私は農学部長というより「飲み学部長」を自負しています（笑）。あまりお酒は強くないですが、各支部での会合等で「遊びに来てほしい。」と要請がありましたら、身体が空いている限りお邪魔したいと思っています。お気軽にお申し付けください。（追記）お正月返上でこの原稿を書いている時、ちょうど能登半島地震が発生しました。新潟大学の地は震度5強で、過去の中越地震や中越沖地震よりも強く揺れました（新潟地震はさすがに経験してないのでわかりません）。私はすぐに机の下に逃げ込んで大丈夫でしたが、居室は山積み書類や書籍が雪崩となり、言うこの体で脱出しました…。農学部では、一部の机上の精密機器類やガラス器具などが落ちて故障したくらいで、幸いにも農学

2023年度活動計画

幹事長 杉 山 稔 恵
(平01畜産)

部校舎には大きな損害はありませんでしたが、農学部図書室や新潟大学図書館では書架ごと倒れて書籍類が散乱しました。津波警報が一時出ましたので、地域の方や留学生などが一部校舎内に避難してきましたが、これも何事もなく帰宅されました。また、その後、農学部の教職員、学生の安否も確認されました。ただ、報道にもありましたように、新潟大学の南側(砂丘の下端)地域では液状化でアパートも傾いた所もあり、一部の新潟大学生も被害に遭われたとお聞きしています。

以上、新潟大学の状況を報告させていただきますでしたが、能登半島地域では震度7の激震に見舞われ、数多くの方々がお亡くなりになりました。心より哀悼の意を表します、また、被災された方々の中には農学部同窓生やその関係者も数多くいらっしゃると思われ

ます。心よりお見舞い申し上げます。

新潟大学農学部常任幹事会が開催されました

常任幹事会が、令和5年5月27日(土)アートルホテル新潟駅前において、開催されました。コロナ禍も5類に移行し、通常どりの開催となり、各県外支部長も交えての開催となりました。

常任幹事会は渡辺 仁会長の議事進行により、物故者への黙とうから始まり、2022年度の各種報告事項及び執行部提案の2023年度活動計画、事業予算の審議が行われ、承認されました。

引き続き、杉山稔恵幹事長から農学部の近況について説明がありました。

幹事会終了後は、懇親会開催となり、和やかな歓談が行われました。

なお、常任幹事会開始前に70周年記念事業実行委員会が開催され、常任幹事を含めて渡辺治実行委員長から記念事業の計画の説明がありました。



本年度は新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類へ移行され、この3年間で中止されてきた卒業祝賀会や農学部「学術・文化活動への支援」「高校訪問」等の各種事業の活発化が予想されます。その他、学生への学ぶ環境の整備として「農学部図書室への支援」、農学部学生の「就業力育成事業への支援」等を中心に、例年どおりの事業を企画し、可能な事項から実施していく。

1. 「松濤」41号の発行

同窓生からの投稿を促し、また、農学部の「今」をお知らせできる会誌を目指します。

2. 『風丘庭』の維持・管理をとおし

ての有効活用を図ります

農学部顔である「風丘庭」は、農学部同窓会創立70周年の記念事業として再整備を計画しているため、草刈り等必要最小限の整備とします。

3. 学部内諸行事への支援

「卒業祝賀会」開催への支援を行います(卒業生出席無料)。

4. 学術・文化活動への支援

農学部が行う国際交流事業、および農学部フォーラム/K A A Bフォーラム等の学術・文化活動を支援します。

5. 受験者増加への取組みに対する支援(農学部の魅力PR)

農学部を理解してもらうための「高等学校への訪問」及び「高等学校教員の招聘(アドミSSIONフォーラム)事業」への支援を行います。

6. 農学部在学生のための農学部図書室の充実支援

在学生への具体的な支援の取組として、農学部図書室の充実支援を行います。

7. 農学部学生の就業力育成に係る支援

農学部学生の就業力育成にあたり、卒業生による指導、助言のための講演、研修会などの支援を行います。

8. 全学同窓会活動の運営及び各種行事への参加協力

渡辺会長…全学同窓会副会長・理事、杉山幹事長、佐藤在校幹事…運営委員会委員

2022年度新潟大学農学部同窓会事業費決算報告（令和4年5月1日～令和5年4月30日）

1. 収入の部

(円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	3,400,000	3,400,000	0	
前年度繰越	1,751,962	1,751,962	0	
利子・雑収入	27	25	2	利息 25 円
合計	5,151,989	5,151,987	2	

2. 支出の部

(円)

科 目	予 算	決 算	増 減	備 考
1. 事務局費	700,000	581,860	▲ 118,140	通信費、光熱水料、電話料、謝金、消耗品費等
2. 会議費	200,000	400,025	200,025	常任幹事会旅費、常任幹事会会場使用料等
3. 名簿情報維持管理費	75,000	79,305	4,305	名簿データメンテナンス
4. 卒業祝賀会費	700,000	0	▲ 700,000	新型コロナウイルス感染の拡大による 中止
5. 退職者記念品費	15,000	15,000	0	退職者なし
6. 嵐丘庭維持費	500,000	441,351	▲ 58,649	中庭草刈り 1 回、嵐丘庭木道補修
7. 「松涛」発行費	1,400,000	799,804	▲ 600,196	「松涛 39 号」「しおり」印刷、郵送等
8. 慶弔費	50,000	0	▲ 50,000	
9. 支部活動助成費	353,960	354,125	165	8 支部（6 支部 35,550 円、新潟県支部 70,110 円、首都圏支部 70,550 円）振込送金
10. 学文活動助成費	250,000	0	▲ 250,000	
11. 全学同窓会負担金費	403,595	434,145	30,550	令和 3 年度入学定員による比率（%）8.1131
12. ホームページ費	50,000	3,000	▲ 47,000	ホームページ更新等
13. 志願者確保対策助成費（高校訪問旅費助成費）	170,000	0	▲ 170,000	教員による高校訪問 アドミッションフォーラム等 中止
14. 農学部図書室充実費	100,000	99,993	▲ 7	農学部学生による希望図書の購入補助
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	4,000	▲ 46,000	就職ガイダンス謝礼
16. 予備費	134,434	2	▲ 134,432	利息 ▲ 2
合計	5,151,989	3,212,610	▲ 1,939,379	

3. 差引残高（A－B）1,939,379 円

2023年度新潟大学農学部同窓会 事業会計予算（令和5年5月1日～令和6年4月30日）

1. 収入の部

(円)

科目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
基金収入からの繰入	3,800,000	3,400,000	400000	
前年度繰越	1,939,379	1,751,962	187,417	
利子・雑収入	25	25	0	
合計	5,739,404	5,151,987	587,417	

2. 支出の部

(円)

科目	本年度予算	前年度決算	増 減	備 考
1. 事務局費	700,000	581,860	118,140	全学同窓会交流会・役員会出席補助、通信費、電話料、各支部への出張旅費、謝金、消耗品費等
2. 会議費	500,000	400,025	99,975	常任幹事会開催関係経費等
3. 名簿情報維持管理費	80,000	79,305	695	名簿情報メンテナンス等経費
4. 卒業祝賀会費	700,000	0	700,000	卒業祝賀会費補助
5. 退職者記念品費	75,000	15,000	60,000	退職者教員 5 名（@15,000）
6. 嵐丘庭維持費	100,000	441,351	▲ 341,351	除草等
7. 「松涛」発行費	2,000,000	799,804	1,200,196	「松涛40、41号」「しおり」印刷、発送等
8. 慶弔費	50,000	0	50,000	弔電、生花代等
9. 支部活動助成費	360,000	354,125	5,875	支部活動助成（6 支部@35,000 首都圏、新潟県@70,000）振込手数料
10. 学文活動助成費	250,000	0	250,000	3 大学合同研修会、FCシンポ、新大GP、農学部フォーラム等
11. 全学同窓会負担金費	450,000	434,145	▲ 31,235	令和 4 年度入学定員による比率（%）8.0719
12. ホームページ費	10,000	3,000	7,000	H P メンテナンス等経費
13. 志願者確保対策助成費（出前講義旅費助成費）	170,000	0	170,000	高校訪問、アドミッションフォーラム等
14. 農学部図書室充実助成費	100,000	99,993	7	農学部学生用図書及び閲覧スペースの充実
15. 学生の就業力育成に係る助成費	50,000	4,000	46,000	農学部学生の就業力育成のため農学部卒業生による指導・助言
16. 予備費	159,404	2	159,402	
合計	5,754,404	3,212,610	2,541,794	

2022年度新潟大学農学部同窓会基金会計報告（令和4年5月1日～令和5年4月30日）

1. 収入の部

(円)

科 目	前年度	今年度	増 減
繰越金	25,737,040	27,283,994	755,291
基金収入（入会金）	4,710,323	3,965,806	▲ 744,517
利子	1,357	167	▲ 1,190
合 計	30,448,720	31,249,967	801,247

2. 支出の部

(円)

科 目	金 額	備 考
事業費繰入	3,400,000	
70 周年事業費	411,290	第四北越銀行普通預金を70周年記念事業費に転用
合 計	3,811,290	

3. 次年度への繰越金

(円)

科 目	金 額
収入合計	31,249,967
支出合計	3,811,290
繰 越 金	27,438,677



農学部を去るにあたって

農学部での26年間の奮闘

児 島 清 秀

(生物資源科学プログラム)



私は1997年4月に採用され、26年間教授として勤務しましたが、研究面で期待に沿うように奮闘しましたが、まだまだ成果を出せたようにも思いません。着任10年後からの約10年間は研究費の獲得にエネルギーを注ぎ、ホルモンは科研費などで果実の硬さ関連で農水から合計で約1億円分採択できました。しかし、この時期はほとんど論文を書いてないので、農学部の主担当になりました。

大学院、ポストドク2年間と京都府立大学の2・5年間は主に園芸作物の内生植物ホルモンの分析をして論文を

書いてきました。共通機器のLC-MSが農学部にあるのでこの技術が続けようと思いました。しかし、操作が難解で状態が良くなかった。それでもなんとか分析して3報の論文がアクセプトされました。やむなく研究分野を広げようと、放射性植物ホルモンでホルモンの代謝・移動や蛍光検出器でオーキシンの簡便な定量に取り組みました。しかし、成果は出ませんでした。幸運にも着任10年目に学長裁量経費でMS検出器が購入できました。その後13年間は卒論・修論に活躍しました。ラストスパートの3年で卒論を学会誌に投稿して、これに説明を加えて「農業および園芸」に21本の総説として、さらにこれらの総説をもとにカラー化してアマゾンから2冊の本を出版します。管理職や事務の皆様には多大なるご支援を頂き、退職にあたり、本誌面をお借りして感謝申し上げます。教員の皆様には、研究成果には効率の悪いのが自明な選択と集中が始まっています

が、頭脳と根性で成果を出すことを期待しております。

学部生、教員としての日々を振り返って

岡 崎 桂 一



1977年に学部生として本学に入學し、その後教員として長きにわたりお世話になりました。入学当初の教養部では、西村米八先生(育種栽培学研究室初代教授)が退職後に非常勤講師としてメンデル遺伝学の講義をされており、私の人生における幸運な出会いでした。卒業論文は馬上先生(三代目教授)の指導のもと、アブラナの胚培養に関する研究でした。本学農学部を卒業後、東北大学大学院に進みアブラナ科植物の自家不和合性をテーマに博士号を取得しました。1986年4月からは富山県野菜花き試験場でチューリップとユリの育種に携わりました。

1994年10月に再び本学農学部にご縁があり、29年6カ月勤務しました。採用までの経験を活かし、アブラナ科作物の耐病性などの農業形質の遺伝解析、ユリ・チューリップの系統分類、種間交雑、倍数性に関する研究を行いました。自身の卒論で習得した胚培養と新しい分子生物学的手法を組み合わせ研究を進展させるなど、研究には終わりがなく、一つの課題を解決すると次の課題が現れる繰り返しでした。学生との交流や研究エピソードを紹介する紙幅がないのが残念ですが、これまでの研究成果は、共同研究者、そして私の指導のもとで研究に従事してくれた85人の卒論生、34人の修士、12人の博士たちのおかげです。この場を借りて心から感謝申し上げます。

大学の法人化後、様々な大学改革やコロナ禍の混乱の中に身をおいてきましたが、中期目標にどれだけ貢献できたのか忸怩たる思いがあります。今後は、農学部の応援団として農学部の更なる発展を祈っています。長い間お世話になりましたこと、教職員はじめ関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。

年々歳々、歳々年々

箕口 秀夫



研究推進機構朱鷺自然再生学研究センターの新潟大学佐渡3施設を発展統合させた佐渡自然共生科学センター（全学共同教育研究組織）の設立、と2回の大きな組織改革に主体的に関わることでできました。大学に戻るときの約束を、それなりに、果たせたのではないかと胸をなでおろしています。

1978年、ブナ林研究の第一人者であった丸山幸平先生（2011年逝去）に師事するため新潟大学農学部入門をたたいてから、途中の新潟県職員での12年間キャリアパスも含めると、46年間を新潟そして新潟大学とのご縁に恵まれて過ごしてきました。そのうち教員としては1996年10月に、演習林を守り立てるため、初めての佐渡常駐として赴任したのを皮切りに、佐渡での約3年を含め、27年6カ月にわたりお世話になりました。その間、2001年の演習林と農場に企画交流部を加えて一体化させた農学部附属フイールド科学教育科学センター（農学部FC）の設立、2019年の農学部FC「演習林」と理学部「臨海実験所」そしてセンター長を拝命していた

同窓会活動では、2011年度から2017年度までの7年間、幹事長を務めさせていただきました。その間、2013年の60周年記念行事として嵐丘庭を「越後の森」として再生、創造する事業に関わる事ができました。（株）グリーンシグマ代表取締役の平田敏彦さん（第18回林学科卒）を核に同窓会、農学部が丸となった森創りに関わったことは幸せでした。

森創りのコンセプトは「農学部らしさ」「学生の学部への帰属意識」そして「同窓生と学生の思いを40年後の100周年につなげる」です。林（もり）は「人の足音を聞いて育つ」といいます。農学部学生や同窓生の足音をたくさん聞いて成長した100周年を迎える頃の越後の森に想いを馳、これまで育んでいただいた農学部そして同窓会

の皆様心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

基礎研究から応用研究へ

三ツ井 敏明
（応用生命科学コース）



1986年7月に助手として赴任して以来37年間、新潟大学農学部には大変お世話になりました。何とか区切りとなる定年退職を迎えられたことに喜びを感じております。振り返って見ると、多くの協力者に恵まれて、大学院生の時に出会ったイネの澱粉代謝制御に関する研究を一貫して続けられたこと、そしてcomedo新潟で研究展開できたことは幸運でした。若手研究者

の頃は、生化学・分子生物学・細胞生物学と言った基礎研究命で研究に没頭していました。設備も研究費も無い状態でしたが、如何にしてオリジナル研究をするのかを苦しみながらも百回に

1回の成功を喜んでいたのを思い出します。そして、世紀が変わる2000年前後に出会ったイネα-アミラーゼのプラスチドターゲットイングの発見は大きな転機となりました。当時もうすでに高温登熟によるコメ品質低下、コメの白濁化（白未熟粒）が問題になっていました。基礎研究の成果から、α-アミラーゼが高温登熟障害の原因だというアイデアが浮かびました。ここから新大コシヒカリの開発研究が始まったわけです。しかし、応用研究の難しさを痛感しました。基礎研究の先に応用研究があるわけでは無かったです。応用研究は社会と密接な関係があり、サイエンスだけでは前に進めないことに戸惑いを感じながらしかし、これにどっぷり漬かっている今日この頃です。社会実装を成し遂げるために引き続き研究開発を続けたいと思っています。農学部の益々のご発展を祈念いたします。



支部だより

◆首都圏支部

首都圏支部会員の皆様、元気で過ご
ごしのことを思います。

やっと、私たちを苦しめてきた新型
コロナウイルスの猛威も落ち着きを見
せ、様々な行動制限が緩和されたこと
から、ようやくコロナ禍前の日常を取
り戻しつつあります。

まず、首都圏支部総会を令和5年7
月8日(土)に東京都内のホテルにて、
4年ぶりに開催しました。当日は支部
会員20名が出席し、支部活動及び会
計を事務局より報告するとともに、今
年度の役員について質疑をおこない承
認されました。

来賓の西
海農学部長
からは、学
部の現状と
今後の大学
についての
説明があ
り、女子学
生の割合が
多くなって



いる(50%超)こと、専
攻プログラムによって人
気に偏りがある等の話題
が提供されました。同じ
く来賓の渡辺同窓会長か
らは、今年秋に開催予定の同窓会発足
70周年記念事業について説明があり、
記念式典への参加と記念事業(嵐丘庭
の補修整備)のための寄付依頼があり
ました。

総会終了後には、農学部OBの白川
隆氏による「救え、新潟砂丘のスイカ」
と題する記念講演を行いました。前職
の農水省時代から関わっていた植物防
疫の観点からスイカ果実汚斑細菌病菌
に汚染された輸入種子が原因で発症す
るスイカの病害を解りやすく解説して
頂きました。その後の懇親会では、昭
和35年卒業の若桑大先輩の発声で乾杯
し、賑やかな歓談があちこちで見られ
ました。参加者全員の近況報告後、全
員で「四季の新潟」を合唱し、お開き
となりました。短い時間でしたが、楽
しい一時となりました。

また、令和5年11月11日に新潟市内
のホテルにて、農学部同窓会設立70周
年記念式典が開催されました。当日は
新潟県内に居住する会員はじめ遠方か
らの参加者200名強が集い来賓換
拶、3名の方の講演や古町芸妓の皆さ
んの演舞等で大いに盛り上がりまし
た。記念事業の一環で農学部内の「嵐
丘庭」修復状況についても実行委員会

より報告がありました。寄付を頂いた
皆さんにはこの場で感謝申し上げま
す。

大変な我慢を強いられた4年間でし
たが、忍耐力や適応力を鍛錬する期間
であったと捉え、この経験が今後の飛
躍に繋がるものと信じて進んでいき
たいものです。来年の支部総会での再会
を楽しみにしています。

加藤 彦枝(昭56農工)

◆富山県支部

富山県支部の令和5年度は、まず4
月に県議会議員選挙があり、大変うれ
しいことに、当支部の中川忠昭(47卒)
相談役、井上学(56卒)相談役のお二
方が、見事、再選を果たされました。
しかし、その後、多大な被害をもたら
した豪雨災害やツキノワグマの大量出
没などが発生し、会員の中にはその対
応に追われ、大変ご苦労された方も多
くいました。



佐藤支部長のあいさつ

こうしたな
か、10月18日
(水)に39名の
会員が参加し
て、令和5年
度富山県支部
総会及び懇親
会を盛大に開
催しました。

箕口先生からの大学
の近況報告



総会では、佐
藤宏支部長(59
卒)のあいさつ
の後、令和4年
度活動報告・会
計報告、令和5
年度事業計画及
び収支予算を行
い、それぞれ承
認されました。

また、事業計

画のなかでは、昨年度の総会・懇親会
で提案されていた農学部同窓会創立70
周年記念事業への参加者支援事業(交
通費)も承認され、11月の記念行事に
は橋本正義副支部長(55卒)をはじめ
10名の会員を送り出すことができ、大
いに富山県支部をアピールしていた
いたと思っております。

懇親会においては、初めに、農学部
の箕口秀夫先生から大学の近況など
について、現在の農学部と10年前の状
況を比較しながら紹介していただきま
した。

その後、中川忠昭(47卒)相談役、
井上学(56卒)相談役のお二方から
ご挨拶もあり、会場は大いに盛り上
がり楽しいひとときとなりました。

これからも多くの富山県在住の会員
に参加いただき、活動を盛り上げてい
きたいと考えています。

平野 雅治(平5卒)

◆秋田県支部

令和五年もウクライナなどの紛争をはじめ、世界的に異常気象が目立った年でありました。日本でも高温化や豪雨は、毎年どこかの地域に災害をもたらし、人々の暮らしをはじめ、産業や生態系などに様々な影響及ぼしておりますが、とりわけ1次産業に関わってきた者として、農林水産業の対応が気になっております。

秋田県では、7月の豪雨で秋田市中心部が広範囲に浸水するなど、これまで経験のない被害を受け、いまだに復旧しきれてない状況にあります。さらに、8月の高温化と少雨による農作物への影響は大きく、米や園芸作物の収量減や品質低下をまねくなど、農家を落胆させる結果となつてしまいました。もちろんどの地域の関係機関でも、対応する品種改良などに取組んでいることでしようが、作物自体の種別も本格的に検討が必要となつてくることでしょう。

さて、秋田県支部では、被災前の7月8日に秋田キャッスルホテルにて総会を開催しております。総会とは言えないような6人という参加人数になつてしまいましたが、秋の記念祝賀会には参加しようと盛り上がったところで、残念ながら、その後の被災等により、当支部からの参加者は2名であり

ました。

巷では、コロナを契機として対面の対応が見直され、若い人の間でも、飲み会への参加なども増えてきているとのことですが、決して世代を超えたコミュニケーションに関心が高いとは思えない気がします。毎年、総会通知返信ハガキの会員近況報告欄を見ながら、皆さんに参加してもらえうる会合にできないか考えさせられますが、また次年度に向け一考し、何か手探りながらも行動することが大事なかなと思っております。

小島 武志（昭52農工）

◆福井県支部

福井県支部の総会は新型コロナウイルスの影響で、昨年、3年ぶりに開催され、その席で次期会長に選ばれました。5月に開催された同窓会常任幹事



会に出席するため、何十年ぶりの新潟駅、改装中で戸惑いました。が、駅前で「銀色のバス」を見ると新潟にいることを実感しました。11月には同

窓会創立70周年記念式典に参加し、記念講演で新潟のお酒を堪能、祝賀会では、お世話になった先生や同級生の話で盛り上がり学生時代を思い出す楽しい時間を過ごすことができました。

翌日は、県支部の総会で大学の様子を紹介するため、越後線以前はなかった新潟大学前駅から大学へ、周辺の様変わり（あの広い畑はどこ）に驚き、一方、目新しい建物が立ち並ぶ構内で、昔と変わらない農学部棟として第一学食（昔お世話になりました）を見ることができました。この様な機会がなければ来ることはなかったかもしれません。

さて、県支部の総会は、令和5年11月22日に福井市内で開催し、11名の参加をいただきました。会計報告に続き、70周年記念式典については、講演会、祝賀会の写真や出席者の名簿を見ていただきながら紹介しました。名簿の中に懐かしい名前を見つけた方もおられたようです。なお、福井県支部からは私も含め3名が出席しました。五十嵐キャンパスの現況は、新潟大学前駅や大学周辺の変貌、そして今回の記念事業で整備された嵐丘庭について説明させていただきました。

懇親会に移り近況報告では、皆さんから孫の送り迎え・ボランティア・米作り・農業研修など日々の仕事や生活、大学時代の思い出を楽しく話して頂きました。また、今回は農林高校の

先生も参加され、生徒の就農に関することが話題となり、高校と就農支援センターで協力していろいろの話も出ました。限られた時間でしたが有意義で楽しいひとときを過ごして頂けたことと思います。次回は更に多くの方が参加していただけるよう願っています。

山口 良一（昭55畜）

◆福島県支部

令和5年11月11日、新潟大学農学部同窓会70周年記念総会、誠におめでとうございます。都合で、参加できない状況ではありましたが、盛大に開催されましたこと、素晴らしいことでございます。

例えば、平成25年6月8日、農学部同窓会60周年記念総会が、新潟大学附属図書館で開催され、式典と講演会が盛大に実施されたこと。引き続き行われた、懇親会では万歳三唱の音頭を指名され、「新潟大学、新潟大学農学部、新潟大学農学部同窓会、万歳」の全員唱和を戴いた事が蘇えって参りました。

恐らく、前回に増して、盛大に開催されたこと存じます。農学部同窓会の益々のご発展をご祈念致したいと存じます。

一方、外部コーチとして通う、福島県立南高弓道部では、県北地区までは、

上位入賞まで出来ても、県大会では、団体入賞は出来ず、男子個人・「射道優秀賞」、女子個人第4位入賞で、東北大会出場は、立派な成績としたいと思います。

併せて、毎日通う、福島市弓道場が、今の生き甲斐となっております。

このような状況で、福島県支部では、総会が開催されないまま、数年が過ぎています。コロナの収束まで、支部活動のあり方は、どうすれば良いのか、思案していました。

そこで、コロナも収まり、今年は、7月頃、開催される運びの様子であることが、事務局・沢田吉男様からあり、大変良かったと思っています。

久しぶりに開催されます、支部総会において、新しい組織により、更なる、福島支部活動が、円滑に進められていくことを、心より願っています。

支部総会の開催が、今から待たれるところです。

高久 英昭 (昭32農)

◆長野県支部

2019(令和元)年11月24日(日)、長野駅近くのホテル信濃路にて開催された第23回長野県支部定期総会を最後に、新型コロナウイルス感染症(以下、新コロ)蔓延防止のため、総会を見送って参りました。2023(令和5)年

5月、新コロはついに5類扱いとなり、同年11月25日(土)、松本駅近くのホテルモニターニユ松本にて、渡辺同窓会長を来賓としてお迎えし、待望の長野県支部第24回同窓会を無事に開催致しました。

総会では、互いの無事を確認しつつ、この間に逝去された佐藤正彦先輩(6回・林、初代長野県支部長)への黙とうの後、蔓延防止期間中の活動・会計報告、本部同窓会常任幹事会や総会への参加報告に続き、渡辺同窓会長より、同窓会70周年記念事業の報告を頂きました。

長野県支部の参加者は、農学部移転前の河渡出身者が多く、五十嵐キャンパス出身者は少ないのが現状です。また、発足から運営にご尽力いただいた先輩諸氏も、体調を崩される方が散見されるようになりました。大勢の、特に新規参加の同窓生にお越しくたために、①長野市と松本市で隔年開催、②新規参加者および③女性には参加費2,000補助を行っています。また、2023(令和5)年9月には、長野県支部の様子をお伝えするために、④「長野県支部通



信」を新たに発刊するなど、運営に工夫を加えております。来年は、五十嵐キャンパス出身者に大勢お越し頂き、五十嵐地区周辺の変容などについて話の花を咲かせたいと思います。

「松涛40号」では、ご挨拶の中で渡辺同窓会長から、同窓会入会者数に復活の兆しありと、明るい報告を頂きました。大勢の同窓生にご参加いただくには、「大学における同窓会活動」とは何か、さらにフォーカスする必要があるように思われます。ただし、かなり多面的な活動実態もあり、言うは易く行うは難し。新コロやインフルエンザに留意しつつ、大勢の方にご参加頂きながら、長野県支部なりの回答を見つけたかと考えています。少なくとも、自分のために活動しているのではなく、何らかの公的な使命があるものと感じています。

小松 正孝 (28回・農化)

◆北海道支部

本年度第二十四回目を迎える北海道同窓会の総会は、十月二十一日(土)に、札幌市の「ホテルポールスター札幌」にて開催となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年間中止していましたが、久し振りの同窓会となりました

出来るだけ多くの方が出席しやすい

いように、札幌駅近くの会場としました。六十通ほどの開催案内を送っていますが、出席者は十二名となりました。

午後三時から

総会が始まり、五十嵐会長(昭和五十一年農学)の挨拶のあと、令和五年度の活動報告・会計報告、令和六年度の活動計画・予算案について協議し、それぞれ承認されました。役員改選では、全役員が留任となりました。

総会に続く懇親会は、井田さん(昭和三十四年農学)による乾杯の発声で始まり、皆さんからの近況報告などで盛り上がりしました。初出席された方、久し振りに出席された方もおられ、色々なお話をお聞きすることができました。おいしい料理や新潟の銘酒を飲みながら、短時間でしたが、会員の相互交流ができ、楽しいひとときとなりました。閉会は明田川さん(昭和四十五年農工)の挨拶で終了し、来年の再会を祈念し会場をあとにしました。

会員の皆様、どうぞお気軽に、同窓会にご出席の程、よろしく願います。

佐藤 誠一 (昭60農化)



ペン
リレー

同窓生からのたより

今を楽しんで

坂上公男（平20農生）

① 近況

大学を卒業して早16年が経とうとしています。現在、群馬県高崎市にありますセコム上信越株式会社高崎支社で勤務しております。私は業務の中堅社員として後輩の指導、支社の業務リーダーとして勤務しております。近年の物価高により、窃盗や強盗といった悪質な犯罪が増加してきています。都市部だけでなく地方でも増加傾向にあり、警備が異常になると一段と気を引き締めて対応しています。

② 趣味

趣味は小学生から続けてきた柔道です。コロナ前まで社会人の大会にでておりましたが、コロナ後は練習できない日々が続きました。最近になって大会を見に行ったり、練習できるようになりとても嬉しく思います。新潟大学の柔道部OB会に参加した時に、現役大学生におもいきり投げられて、また練習しようと思

いました。

③ 最近感動したこと

家族でディズニールランドに久々に行き、近くのホテル最上階に泊まりました。そこで見た東京の夜景とディズニール閉店前の花火が相まって、とても感動しました。またお金を貯めて、遊びに行く予定です。

④ 同窓生在校生にメッセージ

同窓生とは何年前かに、数人で新潟で飲み会をしました。数人にしか会えなかったのも、今度は同窓会でもしたいですね。

在校生には今を楽しんで欲しいです。社会人になれば仕事人生が待っています。勉強しようとしてもなかなか時間がとれないものです。大学では時間がいっぱいあります。バイトする人、海外に留学する人、勉学に励む人等様々ですが、やることを決めて一つ一つを真剣に楽しんでやれば将来の糧になると思います。今を楽しみましょう。

⑤ 次回の筆耕者

バイトの後輩だった加藤君にお願いをしました。彼との出会いは、大学から遠い場所のガソリンスタンド

でした。まさか同じ学部の後輩が入ってくるとは思いませんでした。勉強熱心でなかなか面白いキャラです。次回の楽しみます。



農業を教えて、実践して

山川敏幸（平23農生）

私は東日本大震災の年、2011年3月に大学を卒業しました。新潟県の高校教諭、教科は農業で採用となり、社会人生活をスタートしました。初任校で植物バイオテクノロジーを、2校目で林業を、3校目で食品加工を、4校目で草花の授業・実習を担当しました。あまりにも幅広い「農業」という分野に悪戦苦闘しながら、なんとか実験実習を教えるといった日々でした。新しい分野を担当するたび、大学時代の講義の資料を引っ張り出したり、恩師に連絡をとったりと、大学にお世話にな

ることも多かったですが、温かくお応えいただきました。大変感謝しております。また、教え子たちが新潟大学農学部を志し、受験勉強に励み、合格報告を受けるときの喜びはひとしおでした。

教員生活には9年でピリオドを打ち、現在は新潟県田上町で実家の農業を継ぎ、就農しました。我が家は多品目少量生産を行う直売専門の農家です。自宅横の無人直売所での販売や、地域のスーパーや飲食店などに直接出荷を行っています。お客様と直接お話をする機会も多く、反応を見ながら農業を行えるのが最大の魅力です。また、地域と密にかかわり、農産物のブランド化や農業の未来について考え、話し合う日々を送っています。農業情勢が良いとは言えませんが、楽しく農業ができていると感じています。

最近ではドローンでの空撮やスマート農業に興味を持ち、トラクターも自動操舵に改造するなどして半分仕事、半分趣味のような楽しみができました。トラクターで田んぼに入り、設定をすれば田んぼから出るまでハンドルを握らなくていいというのは大きな感動でした。

機械や農産物の栽培、販売方法など、多くの技術革新が起きていますが、現場の農家が安全かつ簡単に導入できる「実用化レベル」の技術が



増えることを願っています。大学の頃に教えていただいたことを大切に、それを地域に還元できるような努力を怠らず楽しく農業をやりたいです。

次回の大学の後輩であり、教員の後輩でもある新井大和様をお願いいたします。

いつだって、どこだって

森 茉莉 (平25応生)

平成25年に応用生物科学科を卒業した森(旧姓 渡邊)茉莉です。ありがたいことに同級生の篠原祥子さんからご指名いただきましたので、僭越ながら寄稿いたします。

農学部を卒業後は学部生時代と同じ研究室でお世話になり修士課程をなんとか修了し、地元新潟を離れ都内の企業に就職して、工業用機械の

営業部に配属されました。婚約者の転勤に帯同して札幌へ移り結婚・転職し、地元企業に奇跡的に研究員として採用されました。コロナ禍の中で子どもに恵まれ、北の大地にて家族三人暮らししています。

札幌へ来てから走ることに目覚め8kgの減量に成功しましたが、出産後は遠のいてしまい、今は子どもの写真を撮って遠方の「じいじ・ばあば」たちへせつせと共有するのが趣味のようなものです。笑顔の写真もさることながら、悪戯の痕跡を含めおもしろく記録に残しておき、後で家族と見返すのがとても幸せな時間です。

子どもの成長には目を見張るものがあり感動は尽きませんが、せっかくなので北海道らしい話題を紹介したいと思います。秋も深まる十月から十一月上旬、白くて小さなふわふわした虫が札幌の青空を風に舞っていきます。俗に雪虫(ゆきむし)と呼ばれる、アブラムシ科の昆虫です。この虫が飛び始めると「そろそろ冬支度」「いつスタッドレスに替えようか」などという話題で持ちきりになり、一月後くらいにはすっかり雪虫はいなくなつて、かわりに雪が降り始めるのです。土地の自然とともに生きる知恵の一つであり、いつだって、どこだって、つながっていくものがあるのだなと感じています。

す。

このような拙い文をお読みくださりありがとうございます。最後に、次の筆耕者の紹介です。リレーのバトンを快く受け取ってくれたのは、府金(ふがね、旧姓 福島)真美子さんです。彼女は同じ研究室の後輩で、研究、部活、バイトと忙しい日々の中でも明るく前向きで、いつも元気を分けてもらっていました。彼女の卒業後の軌跡を読むのが今から楽しみです。真美子ちゃん、ありがとうございます。よろしくお願いします！



富山から近況報告

石村 謙太 (平29農工)

① 近況報告

つい先日まで大学にいた気がしますが、卒業から7年半が経ってしま

いました。卒業後は、富山県に農業土木職員として入庁し、水路改修やほ場整備のほか農業農村整備事業の施策立案、工事の設計積算及び現場監督を担当しています。地元農家や土地改良区、工事業者と進める仕事は、関係者が多く問題も多岐にわたるため、調整に苦労します。しかし、拡大したほ場や新しい水路はもちろん、それらを使って経営規模の拡大や新規作物の導入を図る農家の変化を実感できる面白い仕事だと思っています。

② 趣味または熱中していること

学生時代、学業に加えて精力的に活動していたソフトテニスを縁あって入庁後も富山県庁ソフトテニス部で続けています。今年は、佐賀県唐津市で開催された全日本実業団大会に県代表として出場しました。結果は揮いませんでした。全国大会の雰囲気や佐賀の鶏天、福岡のもつ鍋などの食事を楽しむことができました。今後も運動不足の解消や友人作りのツールとしてソフトテニスを続けていきたいと思っています。

③ 最近感動したこと

今年、妻と二人三脚で家を建てました。「家を建てる」と一口に言っても、間取りや設備の仕様、外壁、壁紙、その他資金計画など決める事柄が多く、それぞれ期限ギリギリまで頭を抱えながら作業を進めました。



地鎮祭の様子

洋上風力発電

近藤 康行（平13生環）

農学部平成13年（2001年）卒の近藤です。在学当時は農学部生産環境科学科、研究室は砂防研究室に所属しておりました。まずは近況のご報告となりますが、現在は洋上風力発電の事業会社にて、地元開発のプロマネをやらせてもらっています。主に開発部門での地元合意形成や、戦略の立案、実行などのマネージメントを担当しています。

砂防研究室と洋上風力発電というと全く関係ないと感じますが、実は関係性をもって今の仕事についております。砂防・森林土木という専門分野として、前職は建設コンサルタントで土木設計などに携わっておりました。2011年の震災以降、再エネの需要が高まり、縁あって陸上風力発電の土木設計担当として今の会社で転職をしました。そんな中、世界的な洋上風力発電の技術革新及び需要の高まりから、現在の役職につきました。大学時代の専門分野を生かしつつ、新しい分野に挑戦できたのかな、と感じております。

社会人になってからも、大学時代から継続しているものが2つあります。まずは、大学時代の研究を継続し、博士論文としてとりまとめ、平

成27年に論文博士を取得しました。恩師の権田先生には最後までお付き合いたいただき、感謝しかありません。また、大学時代に空手部に所属していたのですが、社会に出てからもOB同士で定期的に練習会を実施し、ここ3年連続で実業団に個人登録し、実業団の大会に出場しています（安定の一回戦負けですが）※写真左です。

今の流行は、土日含めて出張が多いのですが、夜中学生の子供といえる時は一緒に雑談したりテスト勉強の特訓をすることです。

在校生にお伝えしたいのは、月並みなコメントですが、学業でも部活でも研究でも仕事でもなんでも、常に全力で取り組んでください。全力でやった分だけ自分に返ってきますし、全力でやらない自分も自分に戻ってくると思います。新天地での活躍をお祈りしています。



「新潟大学カード」入会のご案内

- 新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと連携して「新潟大学カード」を発行しています。

この機に是非ともご入会を！

※詳しくはホームページ
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousokai/card/> をご覧ください。

入会費
年会費
無料



学部だより

新任教員紹介

生物資源科学プログラム

助教 岡田 萌子



2023年4月に着任いたしました、岡田萌子（おかだもえこ）と申しま

す。出身は大阪で、2021年に神戸大学農学研究科で学位を取得した後は、神戸大学、横浜市立大学とスイスのチューリッヒ大学で博士研究員を勤めておりました。

専門は植物遺伝学、ゲノム科学、育種学です。コムギとその近縁野生種を利用して研究を行っています。これまでは「雑種ができるかどうかを決めている因子は何か？」という根本的な生物学的疑問に答えるべく、やや基礎寄りの研究が中心でした。最近は研究材料が揃ってきまして、野生種が持つ有用遺伝子（ストレス耐性、病害抵抗性など）を効率的に育種に利用するための、応用寄りの研究も始めています。新潟というといネの一大産地で、

コムギの印象はあまりないかもしれませんが、近年は作付面積が増えてきています。新潟の多雨は、乾燥した気候を好むコムギにとって好ましくなく、県内で多く栽培されているオオムギと比べても、栽培が難しいと伺っています。その中でも、新潟県産小麦粉の普及を目指して、農家さんだけでなく製粉会社さん、県の試験場などが一丸となって頑張っておられます。現場の方々に少しでも貢献できるよう、安定したコムギ生産、品質の維持を目指して、次世代シークエンシングなどから得られるビッグデータ解析も使いながら、遺伝学、育種学を軸に教育・研究に励んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

生物資源科学プログラム

准教授 岡本 暁



2022年12月に准教授として着任した岡本暁（おかもとあきとる）と申しま

す。広島県出身です。大阪大学工学部を卒業し、東京大学大学院理学系研究科で学位を取得しました。2018年から農学部の特ニユアトラック助教として在籍してまいりました。これまで太平洋側で育ってきた

ためか、いまだに雪を珍しく感じ、雪が降ると少しワクワクしてしまいます。

現在はダイズなどを用いて「光合成」や「光合成産物の代謝、輸送」に着目した研究に取り組んでいます。これまで様々な学部、研究機関に所属してきたこともあり、農学部では教育や研究を通じて、まだまだ色々なことを学んでいる最中です。光合成やそれにまつわる一連の反応は、作物の収量形成にはもちろんのこと、植物個体の成長や環境ストレスへの耐性にも大きな影響をもたらします。農学部の視点と理学部や工学部の視点を合わせて、教育や独自性のある研究に取り組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

生物資源科学プログラム

准教授 湊 菜未



2018年12月にテニユア・トラック助教／卓越研究員として着任し、

2023年12月より准教授として引き続き農学部の教育研究に携わることとなりました湊菜未（みなとなみ）と申します。専門は植物病理学で、昆虫伝染性の病原体を主な材料とし

て東南アジアなどの熱帯から新潟県をはじめとする国内地域に発生する病害まで、病原体と宿主植物・媒介昆虫の両面から農作物が病気になるメカニズムを研究しています。

出身は北海道江別市で、筑波大学を早期卒業した後東京大学大学院で修士・博士の学位を取得し、東南アジアに研究拠点を構えるCGIAR傘下の国際熱帯農業センターで3年半ほど博士研究員として熱帯作物の病害虫の研究に取り組みました。新潟大学着任後は5年間で農学研究への高い志を持った学部生20名と一緒に研究する機会に恵まれ、今後も農学部で農業の将来を担う人材の育成に参加出来ることを大変嬉しく思います。

地域に根差した小規模農業から発展途上国のフィールドまで広く農業生産の根幹を支える植物病理学分野の教育研究を担当することに責任を持ち、研鑽に努めて参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

流域環境学プログラム

助教 夏川 遼生

2023年10月に着任した夏川遼生です。専門は生態学で、人口が集中する都市から深山幽谷の山地までの様々な環境において、複数の猛禽類（ワシタカ類、ハヤブサ類、フク

口ウ類)を対象に研究を展開しています。頂点捕食者である猛禽類は生態系の均衡を維持する役割を果たしていますが、残念ながら、彼らの多くが絶滅の危機に瀕しています。この主要因として、土地開発や気候変動に代表される、人為的攪乱があげられます。当研究室では、人為的攪乱が猛禽類に与える影響とそのメカニズムを詳細に解明し、具体的な保全策を提言することを目標に掲げています。生態学を基盤としつつも、それに限定されない多角的な手法を用いて、猛禽類の研究に取り組んでいます。

農学部 動向

学会賞等受賞

- 永野博彦(教員)
 - ・日本土壤肥料学会 第42回日本土壤肥料学会奨励賞
 - ・新潟大学 令和5年度新潟大学優秀論文表彰
- 島本由麻(2018年3月修了)
 - ・PAWEES Young Research Award
 - ・農学会 農学進歩賞
- 萩原大生(2023年9月修了)
 - ・農業農村工学会北海道支部 支

部賞

- ・農業農村工学会全国大会 優秀ポスター賞
- 水島孝典(1996年3月卒業)
 - 生産環境科学科
- 農業農村工学会京都支部 優秀賞
- 木津和樹(2023年3月卒業)
 - 農学科
- 農業農村工学会京都支部 研究奨励賞
- 小林秀一(2016年9月修了)
 - 農業農村工学会 技術奨励賞
- 鈴木哲也(教員)
 - ・農業農村工学会 技術奨励賞
 - ・農業農村工学会 著作賞
- 宮津 進(教員)
 - 農業農村工学会 優秀論文賞
- 大高範寛(大学院博士後期2年)
 - 農業農村工学会京都支部 優秀賞
- 中村奈輔(大学院博士前期2年)
 - ・KAAB International Symposium 2023 Excellent Presentation Award
 - ・第6回北陸線植物バイオサイエンス研究会 優秀ポスター賞
- 斎藤嘉人(教員)
 - ・2023年度農業食料工学会研究奨励賞
 - ・第39回近赤外フォーラム 最優秀ポスター賞
- 齊藤光佑(2023年3月修了)
 - 日本地域学会 熊田禎宣賞(修士論文賞)

部賞

- 平井知愛(大学院博士前期2年)
 - 日本地域学会 熊田禎宣賞(修士論文賞)
- 鈴木和佳奈(大学院博士前期2年)
 - 第33回イソプレノイド研究会 例会奨励賞
- 山之内菜央(大学院博士前期2年)
 - 第33回イソプレノイド研究会 例会奨励賞
- 高橋柚衣(大学院博士前期1年)
 - 第37回キチン・キトサン学会大会 ポスター賞
- 小関俊彦(1978年3月卒業)
 - 農芸化学科
- 令和4年度日本地域学会優秀発表賞
- Timur Ersoz(大学院博士後期3年)
 - 令和5年砂防学会研究発表会 ポスター部門奨励発表賞
- 笠原菜月(2023年3月修了)
 - 令和5年砂防学会研究発表会 ポスター部門優秀発表賞
- 阿部春乃(大学院博士前期1年)
 - 学生森林技術研究論文コンテスト 日本森林技術協会理事長賞
- 鈴木優里(大学院博士前期1年)
 - 学生森林技術研究論文コンテスト 日本森林技術協会理事長賞
- 簡浦さとみ(教員)
 - ・日本家政学会 奨励賞
 - ・食生活研究会誌 優秀論文賞
- 西海理之(教員)

食生活研究会誌 優秀論文賞

喜多川優(2023年3月卒業)

農学科

食生活研究会誌 優秀論文賞

五十嵐拓斗(2023年3月修了)

食生活研究会誌 優秀論文賞

田中繁史(技術専門職員)

関東甲信越地域大学附属農場協議会 最優秀賞

鈴木一輝(教員)

日本土壤肥料学会2023年度愛媛大会 若手口頭発表優秀賞

箭内 創(大学院博士前期1年)

令和5年度日本応用糖質科学会東日本支部ミニシンポジウム ポスター賞

Maulana Ibrahim Rau(大学院博士後期3年)

PAWEES Best Paper Award

Asiloglu M. Rasit(教員)

日本土壤肥料学会 第42回日本土壤肥料学会奨励賞

新田将之(教員)

農村計画学会 奨励賞

学会等の開催

- イソプレノイド研究会(2022年9月22日) 第32回イソプレノイド研究会例会、新潟大学、大会委員長佐藤 努教授

学位取得

○佐藤 豊（1987年3月卒業）
農業工学科、博士（工学）、中央
大学、2020年9月

○澤 陽之（1998年3月卒業）
生産環境科学化、博士（農学）、
岩手大学、2020年9月

○鈴木亮佑（2009年3月修了）
大学院自然科学研究科博士前期課
程、博士（農学）、東京農工大学、
2022年3月

会 員 計 報

石川 進（S48・3農化）
本間 武二（S31・3総農）
本保 正信（S38・3農学）
小林 富夫（S33・3林学）
長沼 達夫（S23・3農化）
碓井 正夫（S45・3農学）
相馬 昭夫（S23・3農専林）
八木 正秀（S54・3農研）
大原 雅實（S31・3林学）
平井 宏和（S39・3農化）
高梨 肇（S36・3林学）
太刀川圭二（S23・3農化）
味岡 龍司（S28・3農学）
佐藤 幸雄（S33・3林学）
幸田 達治（S30・3農学）
吉田 真次（S37・3専攻科）
石田誠太郎（S24・3農専農）

梅村 祥信（S38・3林学）
継田 視明（不明・旧職員）
酒井啓一郎（S32・3林学）
沓間 義久（S49・3農学）
庭田 安治（S38・3農学）
篠塚 一夫（S25・3農専）
佐藤 英夫（S25・3農専）
池田平八郎（S30・3林学）
渡辺 明（S57・3農学）
三輪 泰弘（S59・3農工）
犬嶋 正子（S45・3農芸）
立川 良平（S24・3農専）
草野 恭也（S37・3農学）
佐藤 昭一（S31・3農学）
飯島 幸男（S43・3林学）
川瀬 鎮夫（S30・3農学）
南 忠員（S35・3農学）
吉川 仁（S35・3林学）
須田 恭蔵（S25・3農専農）
三宮 清一（S23・3農専農）
寺田 友次（S23・3農専農）
三瓶 恒雄（S38・3農化）
後藤 俊道（S31・3農学）
小林 順一（S34・3総農）
樋浦 善敬（S42・3農学）
松本 泰彦（S40・3農化）
中村 博美（S38・3林学）
山田 昭雄（S50・3林学）
仙田 国晃（S37・3農学）
坂田 昌裕（S35・3林学）
武井 庚二（S35・3農学）
永井 和行（S43・3農学）
松井 東夫（S32・3農学）

土屋 彦治（S31・3農学）
清水 尚二（S41・3林学）
内山 周作（S46・3農学）
渡辺 正孝（S36・3農学）
井越 忠夫（S24・3専林）
五十嵐次男（S33・3林学）
高橋 金吾（S24・3専林）
三國 清吉（S32・3林学）
三浦 郁哉（S23・3専農化）
佐藤 松男（S53・3林学）
小林 圭次（S30・3農学）

同窓会事務局からの お願い

住所《変更届》について

同窓会名簿の整備は、同窓会事業
の根幹であり、運営の基となる貴重
な資料です。

住所を変更された場合は、左記に
より農学部同窓会事務局までお知ら
せください。

住所変更の連絡方法

① 官製ハガキまたはFAX

025-263-3107

② E-mail:

dousou@agr.niigata-u.ac.jp

（お詫び）

卒業生の皆様、今回の松涛編
集、発送が遅れ大変申し訳ござ
いませんでした。

農学部70周年記念誌の編集を
優先し、その抜粋と通常紙面を
合体する作業となり、例年の作
業とは異なつたため遅れが生じ
ました。加えて、編集委員長が
交代となり不慣れな点もあり、
ご迷惑おかけしすみませんでした。

この度、編集委員長を仰せつ
かりましたH8卒川田です。以
後、遅滞なく松涛の編集を行い、
発送できるよう努めてまいりま
す。

よろしくお願いいたします。



特 集

新潟大学農学部同窓会創立70周年記念事業について (創立70周年記念誌(ご寄付及びご寄稿をいただいた方に配布)より抜粋)

70周年記念式典・ 記念講演会・記念祝賀会次第

記念式典 13:30

司会：佐藤 一志 (S61農学)

開式のことば

黙祷

同窓会長あいさつ

来賓祝辞

渡辺 仁 (S52農工)

新潟大学長

新潟県知事

新潟大学農学部長 西海 理之 様

渡辺 広治 (実行委員長 S54農学)

目録

記念事業報告

記念品贈呈

閉式のことば

記念講演会 14:10

1. 「世界初・日本酒学 (Sakeology) : 新潟大学日本酒学センター 設立と活動」
新潟大学日本酒学センター 副センター長 平田 大 様
2. 「描いた酒」から知る江戸の酒 ―近世の物語を通じた酒文化研究―
新潟大学日本酒学センター 特任助教 畑 有紀 様
3. 「Let's try きき酒」

朝日酒造株式会社 総務部 新野 義弘 様

記念祝賀会 16:00

司会：桜井 広利 (S3農学)

開会のことば

実行委員長あいさつ

乾杯

祝舞 (古町芸妓)

農学部学生歌の合唱

万歳三唱

閉会のことば

渡辺 広治 (S54農学)

小島 武志 (S52農工)

篠崎 万智子 (R2農生)



記念式典・記念講演会司会：佐藤 一志



記念祝賀会司会：桜井 広利

記念事業報告

渡辺広治実行委員長から以下の資料（抜粋）により簡単に説明をいたしました。

新潟大学農学部同窓会七十周年記念事業（全体）

I 記念式典・記念講演会及び祝賀会の開催

- 日時：令和5年11月11日（土）午後1時30分～
- 場所：ANAクラウンプラザホテル新潟（新潟市中央区）

II 嵐丘庭の再整備

III 記念誌の作成

* 記念募金（ご寄付）

- * 記念式典及び祝賀会の状況を撮影し、後日YouTubeで配信します。（同窓会員の高齢化や遠隔地等への対応）



II 嵐丘庭の再整備について

1 60周年記念事業による整備

- ◆「同窓生と学生の思いを未来へつなげる森づくり」をコンセプトに、間伐材を活用した木道の設置や、同窓生、学生等による植樹を実施
- ◆同窓生の小島誠氏（第9回卒）揮毫による記念碑を設置



2 10年後の状況変化

- ◆嵐丘庭は、学生、教員はもとより、地域住民の方からも利用
- ◆整備から10年が経過し、植樹した樹木も大きくなる一方で、設置された木道は経年劣化が顕著となり、安全性や今後の維持管理を見据えた検討が必要に



3 再整備の検討

- ◆現状の木道は、今後樹木が大きくなるにつれ、日陰になる区間が多くなり、更に腐食が進むことが懸念されることから、別構造に再整備することが得策
- ◆検討の結果、インシャルコストと維持管理にかかるランニングコストを考慮し、ウッドチップ舗装として改修(下表)
- ◆ウッドチップは、大学構内で発生する樹木の剪定枝やマツ枯れ被害木などが活用可能

材 料	耐久性	景観性	歩き心地	維持管理性	経済性	評 価
1. 硬質南洋材	△	◎	◎	△	×	・ 木材として耐久性に優れているが、高価で入手も困難 ・ 10年以上は持つが、半永久的とはいかない
2. ウッドプラスチック	○	△	○	○	×	・ 耐久性に優れた木材に似たイメージになるが、均一な2次製品の質感となる ・ 特注になり価格が高い
3. 擬木	◎	△	×	◎	×	・ 耐久性に最も優れるが、景観的、質感的にも全体イメージにそぐわない ・ 自然林の中にある歩道のイメージではなく、歩き心地も硬くてコンクリートと同じ
4. 碎石舗装	◎	○	△	○	○	・ 施工当初は白っぽさが目立つが、時間の経過につれ自然の山道のようなになる ・ 施工も維持管理も容易で、経済性に優れる
5. ウッドチップ舗装	△	○	○	△	◎	・ 時間の経過とともに腐食して土に戻るため、ソフトな歩き心地を維持するには、定期的に補充する必要がある ・ 構内の樹木の剪定枝や間伐木、マツ枯れ被害木などが再利用できるため、購入の必要はなく、経済性に優れている ・ 落ち葉が積もれば自然の山道のようなになる

4 整備の状況

- ◆木道を撤去し、大学構内で発生した剪定枝やマツ枯れ被害木をチップ化したものを利用してウッドチップ舗装にリニューアル
- ◆中央の入り口は、緊急車両の進入を考慮して砂利舗装を施工



整備後の全景



木道撤去

ウッドチップ敷き均し

ウッドチップ舗装設置

ベンチ設置

5 サイン（説明版）の制作・設置

- ◆70周年記念事業による再整備のコンセプトと、農学部及び嵐丘庭の沿革を表示



70周年記念事業で設置した嵐丘庭サイン（令和5年）



掲載：新潟大学農学部同窓会 令和5年11月（2023年）

Ⅲ 新潟大学農学部同窓会七十周年記念誌の発行

- 〈構成〉
- 1 記念事業に関する記事（式典・講演会、祝賀会及び嵐丘庭再整備関連）
 - 2 同窓生からの寄稿文（寄稿者は、28人）
 - 3 松涛2014年31号～2023年40号（60周年記念誌で創刊号～30号を収録）
 - 4 企業及び団体等からの広告掲載協力（協力は、現在19社・団体）

* 寄稿及び寄付をいただいた方には、記念誌を一部進呈

* 記念誌は、記念式典等の関係もあり、令和6年1月発行・送付の予定

記念式典・講演会の動画公開について

新潟大学農学部創立70周年記念式典および講演会をYouTubeにて限定公開の予定です。

【公開予定日：2023年11月20日】

新潟大学農学部同窓会HPにURLを公開します。

※YouTube内検索では表示されません。

必ず農学部同窓会HPよりアクセスください。

公開期間は3か月間を予定しております。



〈実行委員の紹介〉（順不同）

事務局 金子哲

No.	氏 名	卒 年	役 職	実行委員会担当
1	渡辺 広治	S54農学	実行委員長	全体
2	渡辺 仁	S52農工	同窓会長	全体、嵐丘庭
3	新村 末雄	S52院農	副会長	記念式典
4	大嶋 良夫	S58農工	副会長/副委員長	祝賀会リーダー
5	佐藤 一志	S61農学	新潟県支部長	祝賀会
6	杉山 稔恵	H1 畜産	幹事長/副委員長	記念式典リーダー
7	渡辺 正義	S60農工	副幹事長	嵐丘庭
8	桜井 広利	H3 農学	副幹事長	祝賀会
9	佐野 義孝	S60農学	在校幹事	会計
10	小幡 浩之	S59農化	職域幹事（県庁）	記念式典
11	真島 徳衛	S62畜産	職域幹事（教員）	記念式典
12	柴宮 秀生	H8 林学	松涛編集委員長	記念誌リーダー
13	川田 学	H8 農生	松涛編集委員	記念誌
14	宮津 進	H21生環	在校幹事	会計
15	鈴木 一輝	H21応生	在校幹事	記念式典
16	斎藤 修一	S63林学		嵐丘庭リーダー
17	藤巻 伸一	S58農学	前松涛編集委員長	記念誌
18	大橋慎太郎	H12生環	在校幹事	記念式典

目 録

一、嵐丘庭再整備一式
右、農学部同窓会七〇周年
記念事業の一環として
寄贈いたします

令和五年十一月十一日

新潟大学農学部同窓会
会長 渡辺 仁

新潟大学農学部長
西海 理之 殿



記念式典

同窓会長ごあいさつ

農学部同窓会長 渡辺 仁

本日は、ご多用のところ、農学部同窓会創立七十周年記念式典に二百名を超える多数の皆様のご出席を賜り、このように盛大に挙行されますことに、同窓会を代表して厚く御礼申し上げます。

また、約二年に渡り準備に携わって頂きました渡辺実行委員長を始め実行委員の皆様やご協力を頂いた関係者の皆様にも心から感謝申し上げます。

昭和二十八年に創立された農学部同窓会の活動も少しずつ充実し、平成二十五年の創立六十周年記念では、学部校舎の大規模改修に併せて、教員、学生と同窓生が協力して「嵐丘庭」を整備しました。私も小さな苗木を植樹したことを記憶しています。

その「嵐丘庭」の樹木もすっかり大きくなり、学部関係者はもとより、地域住民の皆様にも癒しの場として親しまれていると伺っております。

この度の、70周年記念では、経年劣化が著しかった木道を、木材チップを活用した歩道に再整備することにしました。

これからも末永く、皆様に親しんで頂けることを念じております。

本日は、式典に続き、記念講演会も企画しております。

世界で初めてとなる「日本酒学センター」の運営に貢献されている平田副センター長、畑特任教授お二人による御講演、更に朝日酒造の新野（あらの）様からは咧酒のやり方を実践指導して頂きます。是非お楽しみください。

その後の祝賀会では、農学部の卒業生が活躍している県内有名酒蔵の地酒も沢山用意しております。昔を懐かしんで、ごゆっくりお過ごしください。

最後に、農学部の益々のご発展とご参会の皆様のご健勝を祈念するとともに、今後とも農学部同窓会への変わりぬご支援をお願いし、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。



祝賀会

実行委員長ごあいさつ

渡辺 広治

祝賀会を前に、実行委員長として3つをテーマにご挨拶を申し上げます。

1つ目のテーマは、感謝です。

本日は、お忙しいところ牛木学長様、西海農学部長様はじめご来賓の皆様からご臨席を賜るとともに、花角知事からビデオメッセージを頂戴し大変ありがとうございました。

また、平田様、畑様からは、日本酒学に関する貴重な講演をいただくとともに、同窓生である新野様からは利き酒のご指南をいただきありがとうございました。

今回の記念事業におきまして募金をお願いしたところ750人を超える同窓生から、ご賛同をいただき浄財をご寄付いただきました。そして、本日は、お忙しいところ全国から多数の同窓生からご参加をいただきました。大変ありがとうございます。

本記念事業は、19人の同窓生で実行委員会を組織し進めてまいりました。プライベートな時間を割いてご尽力いただいた実行委員の皆様に感謝申し上げますとともに、実行委員会を支えていただいた事務局の金子様に深く感謝

申し上げます。

2つ目のテーマは出会いです。

多感な青春時代を過ごす大学時代の出会いは、人生を豊かにしてくれるものです。私は、学生時代に卒業後もご指導をいただいているお二人の恩師に出会うことができました。本日もご出席をいただいている小島誠先生と伊藤忠雄先生です。農学部を縁にして、ご指導いただいた先輩の皆様、同期や後輩の友人の皆さんとの出会いは、人生を豊かにしていただいたと思います。本日、ここに再び集い、盃を傾けることができるとはこの上ない喜びです。

3つ目のテーマは挑戦です。

今夏、新潟は大変な暑さと少雨に見舞われました。そして、世界を見れば人口は増加を続け、食の確保も大きな





課題です。気候変動対策、みどり、食、農は農学部重要な研究テーマであり、関係者を含め農学部の皆様から果敢に挑戦していただくことを期待しております。

今回、70周年記念、人間でいえば古希でしょうか。10年後は80周年、傘寿となるかと思えます。私もほぼ近い年齢ですが、日々精進し、10年後の80周年も再びこの地に集うことに挑戦することを皆様とともにお願い申し上げます。

結びに、新潟大学農学部、農学部同窓会の益々のご発展と本日ご参会の皆様のご多幸をご祈念申し上げます。本日は大変ありがとうございました。



農学部学生歌の合唱



万歳三唱